

「勝つ喜び若いころとは違う」

将棋の谷川浩司九段が、第78期順位戦B級1組の5回戦で松尾歩八段を破り、歴代単独3位となる公式戦通算1325勝目を挙げた。「最近は一局勝つ難しさを改めて感じている。ただ20代、30代のころとは違った喜びも感じられるようになった」と、かみしめるように話した。

(溝田幸弘)

さらなる高み目指し研究

谷川の先手で始まった対局は角換わり腰掛け銀に。谷川から攻める展開となったが「常に攻めが細いので、苦しいんじゃないかと思っていた」と振り返る。攻めが切れるかと思われた瞬間、思い切りよく飛車を切り飛ばし、小駒を駆使して敵玉をじわじわと追い詰めた。反撃も巧みにかかわし、117手で相手を投了に追い込んだ。

この勝利で、並んでいた加藤一二三・九段の1324勝を抜き単独3位に。感想戦の後、報道各社のインタビューに応じ、「加藤先生は、私の年代でもまたA級におられた息長く活躍された先輩。数字の上で上回る事ができたのはやはり感慨がある」と話した。自身が10代、20代のころに比べて「戦術は変化し、棋士のレベルも高くなってきている」とみる。「昔よりもギリギリの変化に踏み込んでいかないと勝ちをつかめない。それを恐ろずというか…。時にはひどい読み抜けもあるけれど、そういう恐怖心とも戦つていかなければいけない」と、1勝の難しさを語る。

そんな中で「若いときは勝てないが、ここ1、2年は比較的納得のいく将棋が指せるようになってきた」。2年連続で王位リーグ入りし、王将戦でも2次予選決勝まで勝ち進むなど、上位戦線に顔を出すことも増えた。「3年ぐら前は成績も内容も一番悪く、棋士の中で50番目よりは下だったと思う。その時と比べれば一つ上のところで戦えるようになった。去年、今年は30番目ぐらいはなったかな」と

一方で「今のレベルだとリーグや本戦に入ることほできて、それより上を目指すのは難しい」という。さらなる高みを目指し、これまで距離を置いていたソフトを研究で用いることも検討し始めている。

歴代1位は羽生善治九段の1444勝(9月25日現在)、2位は故・大山康晴15世名人の1433勝。次の目標に向けて聞かれた谷川は「1400勝まででもあと75勝ありますね。ひとまずは将棋の真理を追究することや、若手棋士とのねじり合いなどを楽しみにしていきたい」と笑った。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

③ 次の漢字の読みを調べて書きましょう。

将棋

小駒

投了

棋士

② 勝数が1位と2位の人は誰ですか。

① 谷川浩司九段が公式戦で通算1325勝し、歴代単独3位になりました。谷川九段の前に3位だった人は誰ですか。

名前【 】

ことばの説明

ねじり合い(囲碁や将棋で、優劣が不明な局面で、双方の攻めや受けが続くこと)